



The 52nd Annual Meeting of Japanese College of Angiology

第52回日本脈管学会総会

会長 太田 敬 (愛知医科大学血管外科)  
会期 2011年10月20日(木)~22日(土)  
会場 長良川国際会議場 (岐阜県岐阜市)

## 第 52 回

日本脈管学会総会が

10月20日(木)~22日(土)に

長良川国際会議場にて開催されます。

当院からは、血管外科 今井 崇裕先生が

学術発表いたしますのでご紹介いたします。



## リンパ浮腫および下肢静脈瘤患者に対する 弾性ストッキングの効果に関する各社製品間の比較検討

【キーワード】 浮腫 Edema,弾性ストッキング Elastic compression stockings

【目的】 弾性ストッキングは静脈・リンパ管疾患の予防,治療に有用な医療器材である.リンパ浮腫および下肢静脈瘤患者に対し弾性ストッキングを使用して,圧迫圧の維持と下肢の腫脹率および減退率の変化を各社製品間で比較検討した.

【対象】 2010年10月~2011年3月に受診したリンパ浮腫5例および下肢静脈瘤16例,合計21例(年齢 $64.8 \pm 20.8$ 歳,男/女比7/14)とした.

【方法】 観察期間は2ヶ月.比較には弾性ストッキング(CVストッキング,日本シグマックス株式会社),(JOBST,テルモ株式会社),(アンシルク・2,アルケア株式会社),(シグバリス,アルフレッサファーマ株式会社),(ファインサポート,東レ・メディカル株式会社),(レッグサイエンス,小林メディカル株式会社),(レックスフィット,株式会社リムフィックス)を各3例に使用した.各弾性ストッキングの規格は全てストッキングタイプで圧力は中圧とした.圧迫圧は接触圧測定器(A0905-SA,株式会社エイエムアイ・テクノ)を用いて測定した.圧迫圧と腫脹率および減退率の測定は下腿部と大腿部で行った.

【結果】 各社製品の初診時および2ヶ月後の圧迫圧は大腿部1.1~1.6Kpa,下腿部2.1~2.6kpaであった.平均腫脹率は下腿部55.6→20.8%,大腿部45.1→28.3%,減退率は下腿部26.6%,大腿部18.3%であった.

【結語】 各社製品間で下腿部圧迫圧の維持と腫脹率および減退率の変化に大きな差は認めなかったが,JOBST(テルモ株式会社)は大腿部圧迫圧の維持に優れズレ落ちし難く,とくに有用と思われた.

